

三遠南信地域交流たずねある記（４） 三・遠・南信を繋ぐ 県道1号線（飯田富山佐久間線）（２）

～三遠南信自動車道・JR飯田線と並走～

前回（2019年7月発行号No.484）、県道1号線（飯田富山佐久間線）を走り、静岡県浜松市佐久間で国道473号線に接続したところでレポートを終えていた。

しかし、県道1号線はもう暫く続いている。本号では、その続きを終着点までを辿る。

■再び佐久間へ 東栄町へと走る

佐久間の街中、県道1号線の国道473号線との結合点から先は静岡県道1号線と国道473号の重複部分となっている。これを愛知県東栄町に向かう。川合地区との境の天竜川には、この2月29日に供用開始されたばかりの原田橋があり、それを渡ると平成31年3月に開通した三遠南信自動車道佐久間川合ICに至る。

国道473号線は、南信州・奥三河方面から北遠地域を縦断して国道152号線に繋がり、浜松方面へ最短で向かう主要道路である。天竜川に架かる国道473号線の新原田橋は、平成27年天竜川右岸斜面崩落により、当時建設中であった新原田橋と共に落橋した（浜松市HP）。その際、工事中で居合わせた浜松市職員2名が巻き込まれ殉職したという。かつて浜松市に行く際この旧原田橋を渡ったことがあり、事故を聞いて「あの橋が」と驚いた記憶がある。

現在の橋は当初より下流の高いところに架けられており、県道1号線が橋への取付道路の一部になったためこれまでの重複部分が多少変わっている。橋の建設期間中は河川敷の仮橋を通ることを余儀なくされていたが、新々原田橋の完成により佐久間地区と天竜川右岸地区との交通の円滑が確保され、供用されている三遠南信自動車道佐久間川合ICの開通効果を高めている。



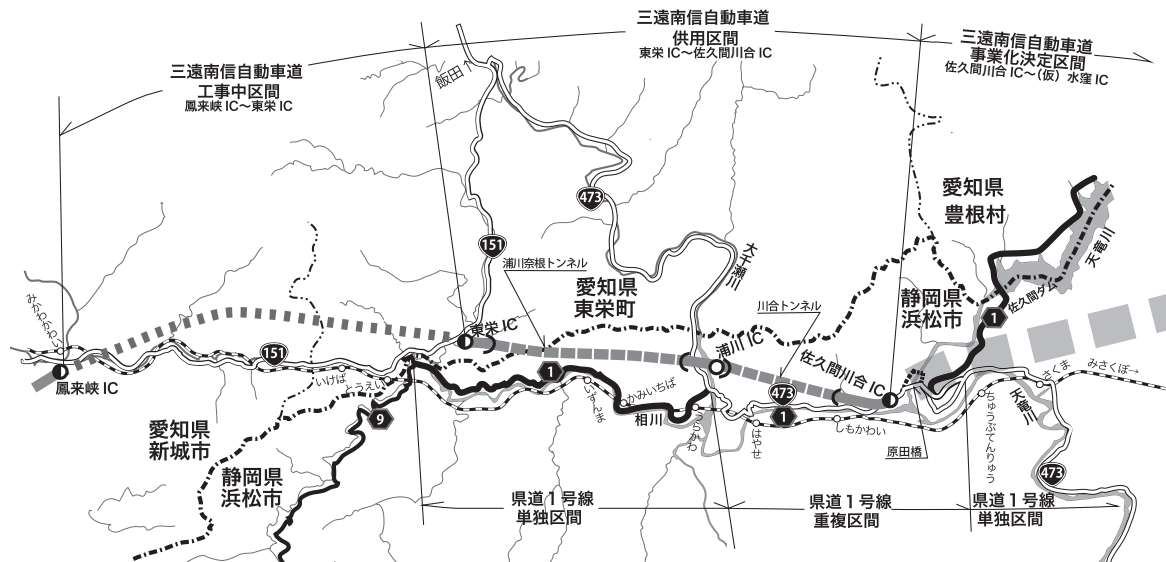
県道1号線と国道473号線の重複区間であることを示す標識



新しくなった原田橋



静岡県道1号線の終点、県道9号線との接続点
矢印は県道9号線、奥が1号線



■三遠南信自動車道を再び佐久間へ

県道1号線・国道473号線は浦川地区の「錦橋」交差点で473号線と別れ、単独で東栄町へ向かう道となる。JR浦川駅、浦川商店街を過ぎ、県道1号線は改良済みの良好な道路となっている。飯田からは天竜川に沿って下ってきたが、佐久間からは天竜川支流の相川に沿って川を遡る形になる。

県道1号線の終点は、「浜松市天竜区佐久間町川上」で、静岡県道9号線「天竜東栄線」との交差点。県道1号線は9号線に接続して終わる。現地立つと、特に県道1号線の起点・終点を示す標識等はなく、まことに素っ気ないものであった。

県道1号線は飯田線と並走して、と書いたが、もう1本並走するものがある。三遠南信自動車道佐久間道路（東栄IC～佐久間川合IC）である。県道1号線の終わりを見届けた後、国道151号線を飯田方面へ取って返すと右手に東栄ICが見えてくる。進入路から東栄IC、三遠南信自動車道に乗り入れた。



東栄IC・浦川IC間の浦川奈根トンネル



三遠南信自動車道 佐久間川合IC手前

■遠州地域・東三河地域で進められる工事

佐久間から愛知県東栄町まで県道1号線で30～40分程度かかった帰り道は、東栄ICに載って最初のトンネル（浦川奈根トンネル3.4km）を抜けると直ぐ次の浦川kmIC、それを過ぎると次のトンネル（川合トンネル2.4km）、これを抜けると現状の終点佐久間川合ICが見えてくる。県道で30分余の行程を僅か数分で通過してしまった。

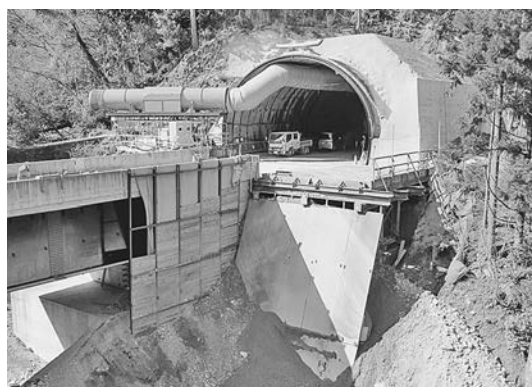
東栄IC～鳳来峡IC間は、現在工事中で、151号線を新城市に向けて走ると、沿道の工事現場にはダンプの出入りが頻繁だった。佐久間川合IC～鳳来峡IC間で最長の3号トンネル（3.5km）が貫通したと伝えられ、地上構造物の設置工事現場をあちらこちらで見ることができる。

佐久間～水窪間は昨年事業化が決定、環境アセスメントに入ると聞く。水窪から青崩トンネルまでは現道活用区間で、青崩峠へ向かう国道152号線では道路改良が取り組まれている。そして、青崩峠道路であるが、水窪池島地区では152号線脇に本坑坑口を見ることができる。

県道1号線、国道152号線を走って、三遠南信自動車道の工事が着実に進められていることを窺うことができた。



鳳来峡IC・東栄IC間も工事進む
(新城市河合付近)



青崩トンネル坑口現場（浜松市天竜区水窪池島）

しんきんリニア対策課は、令和2年4月、本部機構改革によりリニア・三遠南信対策室に名称を改めました。引き続きのご愛顧をお願い申し上げます。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）